

英 語 科 授 業 案

日 時	平成 25 年 10 月 24 日 (木) 13:30 ~ 14:20
生 徒	1 年 C 組 男子 13 名 女子 22 名 計 35 名
授業場	1 年 C 組教室
授業者	吉 岡 康 一 朗

1 単元名 *Sunshine English Course 1 Program 7 Dilo the Dolphin*

2 単元について

(1) 単元観

近年、社会のグローバル化にともない、私たちを取り巻く社会が劇的に変容してきている。生徒たちは社会の変化に対応しながら生き抜いていかなければならず、そのためには単に知識や情報を受信するだけでなく、他者との関わりの中でそれらの知識や情報を交換したり共有したりしながら、自らの意思や考えなどを発信していくことのできるコミュニケーション能力の育成が求められている。そのような社会の要請の中で、平成 24 年度より完全実施となった学習指導要領においては、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力を育成することや、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の 4 技能をバランスよく指導することの重要性が示された。また、平成 23 年度より小学校で外国語活動が導入され、音声面を中心としたコミュニケーション能力の素地が養われていることを踏まえ、小学校の外国語活動と関連させた指導内容の充実が求められており、これまで以上に小中の連携の必要性が高まってきている。

そこで本校 1 学年の指導にあたっては、入学当初から外国語活動で扱われた *Hi, friends!* の学習内容を踏まえた活動（スパイラルタイム）を定期的に取り入れている。またこれまで学習した内容としては、Program1 ではアルファベットの指導とともに、音と綴りの関係性についてフォニクスを取り入れた指導を行ってきた。Program2, 3 では I（1 人称）、You（2 人称）を主語とする be 動詞や一般動詞を用いた文、Program4 では疑問詞 *what* や *How many* を用いた疑問文とその答え方や名詞の複数形、Program5, 6 では *This, That, He, She* など（3 人称）を主語とする be 動詞や一般動詞を用いた文や、疑問詞 *where* を用いた疑問文と場所を示す前置詞を学習してきた。その他にも数字の数え方、曜日や月の言い方、また be 動詞や一般動詞の様々な表現を用いて自己紹介を行う活動も行ってきた。

本単元 Program7 では、疑問詞 *who, when* 及び、代名詞の目的格を学習する。疑問詞については *what* が既出であり、be 動詞や一般動詞とともに使用する用法については既習事項であることから、*who* や *when* についても同様に疑問文を作成できることを捉えさせることが可能であると考え。また外国語活動の中でも、疑問詞 *who* や *when* の定型文を用いた活動を行ってきたことから、それらの活動を踏まえつつ、中学校では自らの意思や考えを表現するコミュニケーション活動となるよう発展させていくことが重要だと考える。代名詞については単に単語として覚えさせるだけでなく、コミュニケーション活動の中で使用する中で、名詞の人称や数、または文の中での働きによって様々な形に変化することを学習していくことが重要であると考え。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

平成23年度より完全実施となった小学校外国語活動を踏まえ、本校では昨年度より附属釧路小学校との小中連携を「豊かなコミュニケーション能力を養うこと」をテーマとして現在進めている。その連携の中では、次の2つの視点を重視して実践を行っている。1つ目の視点は「方略的能力の育成」である。特に小学校段階では、学習指導要領に示された外国語活動の目的が「コミュニケーション能力の素地を養うこと」であることから、音声を中心とした慣れ親しみを重視した活動が展開されており、言葉だけでなく、表情やジェスチャーなどを効果的に活用し、コミュニケーションに支障が生じた際にも様々な手段を講じて回避する能力、つまり方略的能力の育成が重視されている。また2つ目の視点は「自らの思いを伝えるためのゲーム的要素を取り入れた学習活動の設定」である。これは小学校外国語活動で培った能力を活かしつつ、中学校では、自らの思いを伝えようとする中で、より意味や内容を含んだコミュニケーション活動となるような課題設定の工夫を行うことを重視したものである。

これら視点を踏まえ、本単元 Program7 では、疑問詞 **who** や **when** を含む疑問文を用いてのコミュニケーション活動を取り入れる中で、単に定型文を使用するだけでなく、ある人物について尋ねたり、何かを行う時について尋ねたりする際、自分のことを伝えたい、もしくは多くの級友とかわかりたいという思いを抱くよう、クイズなどのゲーム的要素を取り入れた活動で楽しみながら英語の学習ができるように工夫したい。

3 単元の目標

疑問詞 **who** を用いて、ある人物について名前などについて尋ねたり答えたりできるようにし、代名詞の目的格を用いて、その人物について自分の気持ちを表すことができるようにする。また、疑問詞 **when** を用いて、物事を行う時について尋ねたり答えたりすることができるようにする。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識理解
ア. 疑問詞 who , when を用いながら、積極的に相手とやり取りしようとしている。	ア. 疑問詞 who , when を用いてある人物や時について相手に尋ねることができる。 イ. Program7 の本文を正しく音読することができる。	ア. 疑問詞 who , when や代名詞の目的格を用いた文を正しく聞き取ることができる。 イ. Program7 の本文を読んで正しく内容を把握することができる。	ア. 疑問詞 who , when を用いた疑問文の構造とその答え方と代名詞の目的格の変化について理解することができる。

5 単元計画 (全7時間)

時	学習事項	主な学習活動	評価規準			
			関	表	理	知
1 本時 2	Program7 §1 疑問詞 who	○疑問詞 who を含む疑問文と答え方の導入・活動	ア	ア		
		○§1 本文内容理解・新出語彙・音読練習		イ	イ	
3 4	Program7 §2 代名詞の目的格	○代名詞の目的格の導入・活動		ア	ア	
		○§2 本文内容理解・新出語彙・音読練習		イ	イ	
5 6	Program7 §3 疑問詞 when	○疑問詞 when を含む疑問文と答え方の導入・活動	ア	ア		
		○§3 本文内容理解・新出語彙・音読練習		イ	イ	
7	Program7 まとめ	○単元における文法事項(疑問詞 who, when を含む疑問文とその答え方, 代名詞の目的格) や語彙の確認問題			ア	ア

6 本時案

(1) 本時の目標

疑問詞 who の持つ意味を知り、ある人物の名前・職業などを相手と互いに尋ねたり答えたりすることができる。

(2) 本時の展開 (1 / 7 時間)

(○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ	【評価方法】備考
<p>1. 疑問詞を含む疑問文の復習として, what の疑問文に答えることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒の予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ It's ~ . ・ 「何か分からないもの」 </div> <p>2. 疑問詞 who を用いた疑問文を聞き, 人物の名前や職業について聞いていることを把握することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒の予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ He / She is 名前 . ・ He / She is a 職業 . ・ He / She is my 関係 . ・ 「誰かの名前」「職業」「関係」 </div> <p>3. 本時の課題を把握することができる。</p>	<p>○これからクイズを出します。答えてみよう。 (シルエットクイズ) “What is this?” (写真を見せて) “It's ~ .”</p> <p>○ “What” はどんなことを聞くことができますか。</p> <p>○では, 次のクイズです。 (シルエットクイズ) “Who is this?” (写真を見せて) △どうやって答えればいだろう。 △では Who is Ichiro (名前)?”だったら?</p> <p>○ “Who” はどんなことを聞くことができますか。</p> <p>□これから今日の課題について説明します。</p>	<p>【発表】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【外国語活動とのつながり】 Hi, friend 1 ・ Lesson7 “What’s this?”</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【小中連携の視点】 ・ ゲーム的要素を取り入れた活動</p> </div> <p>【発表】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【外国語活動とのつながり】 Hi, friend 2 ・ Let’s play2 “Who am I?”クイズ</p> </div> <p>【発表】</p>
<p>自分の好きな有名人になりきって Who am I ?クイズをしよう。</p>		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【課題】</p> <p>①尋ねる側は, 事前に用意しておいた自分の好きな有名人について名前以外の情報を3つ相手に英語で伝える。</p> <p>②その後尋ねる側は“Who am I?”と尋ね, 答える側はその人物の名前を答える。</p> <p>③答える側がもし答えが分からない場合は, “Hint, please.”もしくは“Are you~?”などと情報を聞き出す。</p> <p>④答えがあたった場合は, その他の情報を相手に伝え, 交代する。</p> </div>		<p>【観察】</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【小中連携の視点】 ・ 方略的能力を活用する場面の設定</p> </div> <p>・ ワークシート配布</p>
<p>4. 相手と互いにクイズを出し合い, ある人物について尋ね合うことができる。</p> <p>5. 課題で用いた表現を確認することができる。</p> <p>6. 学習を振り返り, ワークシートに感想を書くことができる。</p>	<p>□初めに隣の人とペアになり, その後は教室内でどんどん相手を探して活動しよう。</p> <p>□それでは今日の活動で学んだ表現をペアで確認しましょう。</p> <p>□今日の授業で学んだことを振り返り, ワークシートに記入しよう。</p>	<p>【観察】</p> <p>【発表】</p> <p>【ワークシート】</p>